

平成 22 年度 特許ビジネス市シーズ情報

整理番号

事務局使用欄

1	シーズタイトル	竹炭ミネラルウォーターの製造方法とそのパック
2	シーズ提供者 連絡先住所 TEL/E-mail/URL	(法人名) 若槻群逸 (担当者名: 若槻群逸) 三条市本町6-4-22 *連絡は特許流通アドバイザーへお願いします。
3	支援者 (特許流通AD等/連絡先)	特許流通アドバイザー 木村洋一 新潟市中央区鏡西1-11-1 新潟県工業技術総合研究所内 新潟県知的所有権センター TEL:025-290-5575 y-kimura-ad@adp.jiii.jp
4	特許番号等	特許第4046288号

技術情報

5	技術分野	⑥食品・飲料	6	機能	⑭その他
7	利用分野	清涼飲料水	8	適用製品	ミネラルウォーター
9	本技術の完成度	③実用段階			

10 本技術の特徴

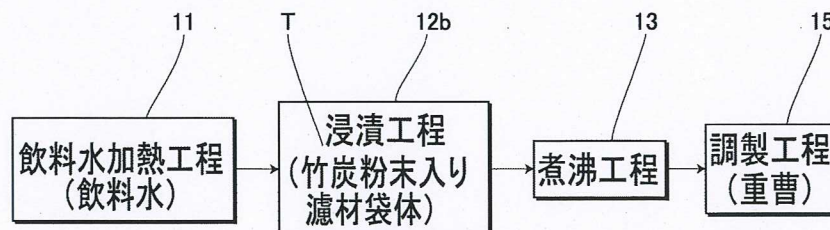
① 従来技術・類似技術の問題点

従来の竹炭を用いた清涼飲料水は、竹炭を固まりのまま使っていたのでミネラル成分が出にくい。また、竹炭の粉を使ったものは竹炭の黒い色を脱色することが困難であった。

② 本技術の特徴・効果 / 類似技術との対比

本技術では、竹炭の粉を袋状の濾材の中に圧力を掛けて硬く詰め込んだ状態のものを使うことによって、竹炭のミネラル成分（カルシウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム）が容易に短時間に溶け出し、更に竹炭独特の黒い色が出ないという特徴がある。

③ 特記事項・添付図面・製品外観図・効果を示す表等



製造工程の例

特許情報		
11	発明の名称	竹炭ミネラルウォーターの短時間、量産製造法、及び無色透明な竹炭ミネラルウォーター用竹炭パック
12	特許権者(出願人)	若槻群逸
13	特許番号 (公開番号/出願番号)	特許第4046288号 特開2005-334862 特願2004-317094
	出願日(優先日)	平成16年10月29日
14	海外出願 特許番号等	なし
15 代表的な独立請求項の記載		
【請求項1】 沸騰飲料水に、竹炭粉末を填圧、硬詰した濾材体を浸漬する浸漬工程と、該浸漬した濾材体を煮沸する煮沸工程とからなることを特徴とする竹炭ミネラルウォーターの短時間、量産製造法。		
16	審査請求有無/審査経緯	審査 有(審査請求日: 平成16年11月17日) 早期審査 (中小企業向け先行技術調査制度の利用状況) なし
17	関連特許 特許番号等	なし

18. 先行・類似技術の調査結果／特許性の判断内容

(代表的な先行・類似技術の特許番号とその内容 等)

先行技術文献1：特開平8-176552 竹炭の製造方法及びその方法で作られる竹炭

割り竹を僅かな通気性を有する容器にいて、焼き上げた竹炭の強度を損なわない温度条件の許で、前記割り竹が十分炭化するだけの熱量を与える事を特徴とする竹炭の製造方法。

本方法とは竹炭の状態に違いがある。

先行技術文献2：特開2001-259659 アルカリ水

Mgを1としたときに、Caが1.5～3.5、Kが8.0～12.0含有する炭の洗浄液及び／又は炭の煮沸液からなることを特徴とするアルカリ水。

本方法とは製造方法が異なる。

先行技術文献3：特開平9-271762 使い捨て改水剤

フィルター袋と、このフィルター袋内に収納された粒状あるいは小さく砕いた微小備長炭とからなることを特徴とする使い捨て改水剤。

本方法とは製造方法が異なる。

ビジネスプラン		
19	特許ビジネス市に期待する連携内容	① ライセンス先の開拓 ③販路拡大・業務提携先獲得
20	ライセンス等の実績の有無	ライセンス実績 (あり (1件))
21	各種助成制度の利用状況	(学連携・自治体等の助成制度等の利用・申込状況、他機関との連携内容等) なし
22 事業化に関する情報		
① 追加開発の要否・具体的内容、事業化に向けて解決すべき問題点 既に実用化しているので追加開発の必要はない。		
② 設備投資の要否・設備投資額、提供可能な中間材の規模・コスト 必要な設備は、竹炭の粉、竹炭の粉を詰め込む濾材を購入すれば、煮沸装置、竹粉の挿入装置、ペットボトルなどへの充填装置など。特に、特許権者から提供できるものはない。		

23 本技術を活用したビジネスプラン

- ① 製品・サービスの概要・特徴（従来品・競合品と比較した優位性等を記載）
竹炭の健康に対する良い効果は十分に周知されているにもかかわらず、竹炭を使った飲料は市場にはない。本技術は、大量に生産するに適している。
- ② 対象とする市場・分野・顧客等（主な顧客、提供できるメリット等を記載）
ミネラルウォーター市場。一般顧客。
健康に寄与できるミネラルウォーター。
- ③ 競合商品・競合相手の状況等
ミネラルウォーター。しかし、竹炭を使ったものは市場にはない。
- ④ 売上・利益計画（市場規模、推定製品シェア、成長性等を記載）
日本ミネラルウォーター協会調べの国内市場の規模（2009年）は出荷ベースで250万Kリットル。金額ベースでは1,756億円（2009年）。金額ベースの伸びは、2000年からの10年間の伸びの平均は7.9%であった。

事業計画:	第1期(初年度)	第2期(2年度)	第3期(3年度)	備考:
市場規模(千円/年)	1756億円	1895億円	2044億円	
製品シェア(%)	1%	2%	3%	
製品売上高(千円/年)	17.6億円	37.9億円	61.3億円	